

海外旅行 ABC——ステテコ考

近頃の旅行ブームはおどろくばかり。俗にいう「独身貴族」の海外旅行熱は、すさまじいかぎりです。そして、これに呼応してとかくのうわさが煙となり、火となって、口さがない人たちの話題となるのも、これもなりゆきというべきか？ 最近、「新西洋事情」「西洋交際始末」(いずれも深田裕介著)がベストセラーとなり、こうした傾向に格好の話題を提供しました。

それにつけて私も思いあたることが多いのですが、ごく最近、おもしろいことに気がつきました。

海外のホテルで、それも欧米あたりのホテルで、日本人がグループで宿泊した場合、どうしてステテコ、あるいはパジャマ姿で廊下へしやしやり出てくるかということです。海外へ出かける日本男児は、「おれは絶対大丈夫」と意気込んで出かけるのですが、はっと気がついた時には、もの見事にステテコ姿で仲間の部屋におしよせているわけです。あきらかに自分の部屋から「公道」である廊下をとびこえてやってきたに違いありません。これにはいくつかの条件が伴いますが、各部屋がとなりあわせで、特に廊下をはさんで向かい合せにある場合に、はっきりその効果？があらわれます。ある部屋でドアを閉め忘れ、向かいの部屋でも、つい日本家屋のくせで扉を閉めません。そして着がえをした時、ステテコ姿になったA氏は、これが西洋人には、見るもぶざまな姿だとはつゆ知らず、ひたすら着がえに夢中です。前を見ればドアをあけはなして同じ仲間が同じステテコ姿です。見られたB氏がたまたま、ちらっと流し目をくれた時、はす向いの部屋でも正に同胞はステテコ姿。つい声をかけ話をしたくなった時、これまであった壁や扉は瞬時に消え失せ、周辺にはコミュニティが出現します。それは宴会と同じ、完全に日本的ムードをもたらしてくれます。当然そこでは伝統的衣裳であるステテコは厳然と認められています。この内なるコミュニティにおける親しい間柄は、日本人の正に生地であり、海外のホテルに滞在しているんだと気がついた時、柄にもなくあわてふためくのです。

私には、どうしてもそんな気がしてならないのです。